

【企画提案型探究活動の取組】 カラスの被害に遭った経験や地域の被害の状況の聞き取りから、企業のアドバイスを受けながら地域と連携してカラス除けグッズを制作を行った。



① 北海道の会社にカラス除けグッズの提案

- ・カラスの習性などについて話を聴き、新しい忌避グッズを企業に提案・アドバイスを受ける。



② 地域の施設での実証実験の検証

- ・実証実験を行い、その結果をまとめ、新たなグッズの提案を行う。



③ 公民館講座の開催

- ・カラス除けグッズ制作に至った経緯や、自分たちが制作したグッズの紹介を行った後、参加者と一緒にグッズ作りを行い、地域へ発信した。



(様式)

令和6年度「ふるさとの学び特別賞」 推薦書

令和6年11月25日

学校名 高浜町立	青郷小学校	校長名 吉田 東庸子
----------	-------	------------

1. 推薦理由

今年度4年生は、学校園でスイカを育てることになった。遠足やイベントの際に、自分たちの食べ物をトンビやカラスに取られた怖い体験や、家の畑の作物をカラスに取られたという体験から、自分たちが植えたスイカの苗をカラスから守りたいと、総合的な学習の時間に、カラス除けグッズの制作に取り組んだ。地域のごみステーションでもカラスの被害があると知り、自分たちが制作したグッズをごみステーションに置いてもらった。そして、地域の方々にもカラス除けグッズを知ってもらおうと、公民館講座を開いた。そこでは、自分たちの探究活動の成果について参加者に報告した後、自分たちが制作したグッズを一緒に作るなど、全員がいきいきと活動することができていた。この活動を通し、地域に出向き、地域の方と一緒に活動することで、子ども達の探究心と成長を実感できたことから、本賞に推薦したいと考えた。

2. 活動内容 テーマ 青郷ドリーム 企画提案型探究学習「カラス除けグッズを作ろう」

4年生14名は、カラスの被害について知り、自分たちの育てるスイカを守ろうと、今年度の総合的な学習の時間にカラス除けのグッズを制作することになった。制作にあたっては、「株 北海道環境バイオセクター」様が、カラスの忌避製品を手掛けていることを子どもたちが知り、協力を得ることとなった。子ども達は、「株 北海道環境バイオセクター」様から、オンラインでカラスの特性や、カラスの害、商品の企画やプレゼンテーションの仕方等、製品づくりにおいて必要な様々なことを学んだ。そして、カラス除けに対する3つの計画を立て、その計画について聴いていただいた。①ヒトデから取れる成分がカラスの忌避剤となることより、ヒトデの秘密について詳しく調べる。②カラス除けグッズを作る。③グッズができれば、地域の方々にも使ってもらおう。この3つである。その後、実際にグッズを作り提案を行い、アドバイスをもらった。企業の方に提案し、アドバイスをいただくことで、子ども達は、新たな発見を生み出し、自信につながっていった。計画の①②を実行した後、③に向けて、夏休みには、区長会や地域の方の協力を得て、地域のごみ集積所や地域の各施設、イベント会場等にグッズを置いていただき実証実験を行った。そこでの結果の検証や、学校園のスイカを守れた実績から、自分たちが制作したグッズがカラス除けに効果があることを実証でき、活動に自信を持つことができた。次は、地域の方々にも知ってもらい使ってもらおうと、青郷公民館にお世話になり、講座を開くことになった。「自分たちの制作したグッズの良いところや、検証結果を伝えたい。」と一生懸命、伝える伝え方の練習をし、本番を迎えた。本番は、全員が本当に良い顔で地域の方と向き合い、堂々とした態度で優しく語り掛け、積極的にグッズの作り方を教えることができた。地域の方々にも大変喜んでいただき子ども達の自信につながった。カラス除け缶バッジ等、児童のアイデアが認めていただけたことから、今後は、企業と連携して具体的な商品化に向けた取り組みを行っていく。

3. 年間活動実績 (12月以降の予定を含む)

- 5月 課題の設定 計画立案
- 6月 「北海道環境バイオセクター」とのオンライン 計画についての報告 グッズ制作
- 7月～8月にかけて地域でグッズの実証実験 実証実験の検証
- 9月 企業に向けて、商品試作品の提案・企業へのプレゼンテーション
- 10月 公民館講座に向けて準備 公民館講座と振り返り
- 11月 商品開発案提案 試作品のデザイン検討
- 2月 学習発表会で今年度の取組の実践報告

4. 提出書類リスト

新聞記事「ペットボトルやうちわに忌避剤試作」(福井新聞社) 掲示物2枚 広報チラシ2枚